



[平成 31 年 3 月 13 日 定例会発表要旨]

コケ群生地「楓の沢」を歩いて

手稲郷土史研究会 会員（相談役） 一ノ宮 博 昭

「苔の洞門」といえば支笏湖観光の目玉だが、これと同等の沢があると地質学の権威・若松幹男氏（当研究会会員：写真右）の提案を受け、手稲郷土史研究会の「手稲石の会」では、平成 30 年 10 月 16 日、日帰りツアーを実施した。この報告会を開くについて、『グリーン大回廊に行く～支笏湖・楓の沢』と勝手な表題にした。現地の案内役、報告会の解説も若松氏に依頼した。氏は支笏湖小学校の卒業生でもある。



ツアーに参加したのは 9 人。当研究会の林事務局長、筆者の花仲間「ふるおら」の佐野社長の車に分乗、五輪道路を一路支笏湖へ。「まるでカレンダーの中を走ってるみたい」との感想がもれる中、紅葉が進む樹林帯を走った。モラップ（モーと伸びるのかと思ってた）の駐車場で入山支度を整え、『かえて橋』の橋ゲタの下をくぐり、いよいよ登山開始。樽前の噴石が堆積しており、小石ほどの軽石を敷き詰めたような涸れ川だから歩きやすい。鹿の足跡がいくつもあり、大自然のド真ん中にいる感じ。

入山間もない沢の間口は予想以上に広いものの、胆振東部地震による落石箇所があるので注意の看板にやや緊張。と、突然、爆竹が鳴った。若松氏のクマよけの配慮。「いるんですかね」と尋ねると、「いないとはいえない」という返事。砂防ダムの堰堤を乗り越えながら奥へ進む。沢幅が狭くなり、両側のカベが高くなってきた。ひと抱えはある奇岩の説明など聞きながら歩を進める。

専門家はこの沢を“函”というらしい。濁流に洗われたのか、巨木の根が無残な姿をさらす。そのカベに問題のコケが現れはじめた。見事な濃緑だ。よく見ると葉の一枚、一枚が違っているのに気づく。カメラを近づけ何回もシャッターを切る。エビのしっぽのような形のエビゴケ、蛇の肌のようなジャゴケなどが多く、なんと 84 種類もあるという。見上げるようなグリーンカーペットを張り付けているような景色になった。一瞬、絵画を見ていると感ずる幻想世界に浸った。

支笏湖周辺でコケが密生する場所は「苔の洞門」と「楓の沢」、「樽前ガロー」の 3 カ所だけ。世界でも例がないという独特のものだけに、研究者の興味をそそっている。今のところ、函の気象条件、湿気、日照時間、函の岩質などが複雑に関連しあっているらしいとしかわかっていない。沢幅はさら



コケがびっしり沢の両壁を埋めている



先端が光って見えるエビゴケ

に狭くなり、カベは一段と高くなっていく。台風の犠牲なのか、巨木がへし折られ函の底に横たわっていた。人力ではいかんともしがたい巨岩が行く手を阻む。明らかに地震の影響だ。ここをくぐったり、またいだり、迂回しながら奥へと進む。コケが密生した巨岩も崩落していた。

この先はロッククライミングのような登山になるというのでここまでにした。全体で 3km もあったろうか。下山者 2 人、登山者 2 人と出会った。

支笏とは、千歳川の水源を意味するアイヌ語の「シコップ」からきているそうだ。漢字表記にしたおり「死骨」と書いたが、これでは縁起が悪すぎるとして、文化 2 年、現在の表記になった。『かえで橋』まで戻って、一時、激しい雨になった。支笏湖独特の降り方だ。かなり昔、恵庭岳登山でこの雨に見舞われ、ずぶ濡れになったことを思い出した。

このあと、ビジターセンター、王子軽便鉄道の山線鉄橋などを見学した後、王子製紙千歳発電所へ足を延ばした。千歳川沿いに 5 ヲ所もあり、さきの地震のときにはブラックアウトもなかった。見学した第一発電所は、明治 43 年に作られた 25,400kw の能力。高さ 130m の千歳川の底に設置したタービンに支笏湖の水を一気に流し込み発電する。樽前の噴石がこんな地形を作ったのかと驚く。王子製紙はこの発電所を作る際、湖水の出口に堰堤を作った。この堰堤の影響で支笏湖の水位は 5m 上がったという。

そこで、素人の疑問が頭をもたげた。もし、この堰堤が大地震の襲来で壊れたとしたら、下流域の千歳、江別、石狩は大変なことになるのではないかと。井戸端論議は伯仲する。筆者は、面積 78.48km²、周囲長 40.4km、高さ 5m 分の水が一気に流れ出したら、空前絶後の大被害になると思うのだが、どんなものだろう。湖畔をめぐる五輪道路も水位が 5m 下がったら、とんでもないガケの中腹を走っていることになるのではないかと。構内には、桜の木が整然と植えられている。花の時期になると見事だろう。

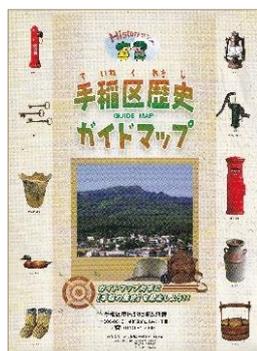
次回予定 ⇒ 「郷土の歴史読本『富丘・西宮の沢時間旅行』の編集に携わって」赤坂登夫氏 (元 手稲中央小学校校長) / 5月8日(水)18:15〜/手稲区民センター 3階 視聴覚室



胆振東部地震で崩落した巨岩



恵庭岳をバックに支笏湖畔で記念撮影



★「手稲区歴史ガイドマップ」の改訂版が完成 記念碑や史跡など地域の歴史を知るための情報をまとめた『手稲区歴史ガイドマップ』の改訂版が、手稲区地域振興課より発行されました。これには手稲郷土史研究会も協力し、掲載情報の更新や原稿執筆、写真提供など、編集の一端を担いました。ガイドマップは手稲区内の新小学 4 年生に配られるほか、区役所の広聴課や地域振興課の窓口、「情報提供室」などに配架の予定です。

★平成 30 年度の事業が無事終了 手稲郷土史研究会では平成 30 年度も会員の皆様のご協力のもと、様々な活動に取り組むことができました。ありがとうございます。なかでも「北海道文化財保護功労者」として北海道文化財保護協会から表彰の荣誉にあずかったことは大きな喜びであり、励みとなりました。次年度も手稲の歴史・遺産について研究を重ね、ゆたかな“ふるさとづくり”に寄与できるように努めてまいります。よろしく願いたします。

★会報をウェブ上に公開 『郷土史ていね』のバックナンバーは手稲区のホームページ上でも閲覧できます。「ふるさと手稲歴史発見事業 手稲郷土史研究会との連携」で検索してください。